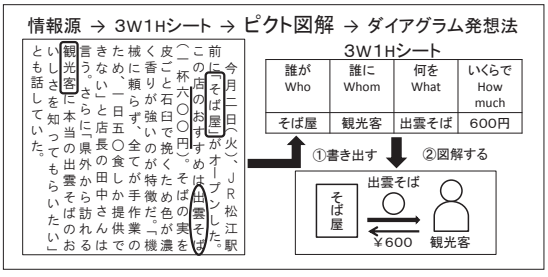
長崎県における商業教育の挑戦

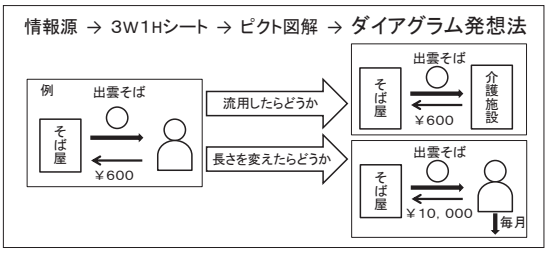
──「ピクト図解メソッド」を導入した授業実践──

長崎県立清峰高等学校指導教諭　鈴木　信雄
長崎県立壱岐商業高等学校教諭　澁谷　憲昭
長崎県立佐世保商業高等学校教諭　田中　利治
（鈴木先生・澁谷先生は平成 28 年度ご勤務校です）

Ⅰ．はじめに

ピクト図解メソッドは，板橋悟氏が開発したもので，企業の収益獲得のしくみが明確になるばかりか，新規ビジネスの創造を助ける優れたツールである。このメソッドを教科指導に取り入れることで，学習指導要領に示されている「（一部省略）ビジネスの諸活動を主体的，合理的に，かつ倫理観をもって行い，経済社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる」ことができ，ひいては地域産業の活性化に寄与する人材の育成に繋がるのではないかと考え，壱岐商業高校と清峰高校で実践をスタートすることにした。





壱岐商業高校では，「ビジネス基礎」の授業で，新規ビジネスアイデアを発想するための土台作りとしてピクト図解メソッドを導入している。

一方，清峰高校では，より実践的な取組として「商品開発」の授業で，ピクト図解メソッドとダイアグラム発想法を活用した地元企業との連携事業に取組んでいる。　**文責：田中（佐世保商）**

Ⅱ．授業実践Ⅰ　壱岐商業高校の取組
「ビジネス基礎」における取組

1．本校の現状と取組について

本校は長崎県の壱岐島という離島にある商業高校（１学年　商業科２クラス，情報処理科１クラスの計３クラス　全校生徒数　約 300 名）である。

本校では「本気で学んで，本気で鍛えて，夢実現！」というスローガンのもと，商業科目を学ぶ生徒が地域経済ひいては日本経済に貢献できる社会人へと成長していくよう指導を行なっている。しかしながら，生徒の多くが，基礎学力・読解力・表現力が不十分な状態で入学しているのが現状である。また，離島は経済生活の幅が狭く，多種多様なビジネスの場面に触れる機会が少ないというハンデを負っている。

このような状況から，平成 26 年度より「ビジネス基礎」において，①新聞記事やインターネットなどを活用し，実社会とリンクさせ，ビジネスに関する知識や理解を深めさせる。②「ピクト図解メソッド」の活用によって，言葉だけでは理解しにくい内容を可視化することで経済のしくみやビジネス活動を理解しやすくする。③ペアワークやグループディスカッションによる学習形態を取り入れることで，コミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を育成する，ということから授業で取組んでいる。

2．ピクト図解メソッド導入時の授業風景

①全体説明　②新聞要約の説明　③グループ学習

④ピクト図解の説明　⑤ペアワーク　⑥記入の様子

⑦ペアによる発表　⑧他の考えを発表　⑨確認と指導助言

3．ピクト図解メソッドを活用することで期待できる効果について

（1）企業がどのようにして利益を生んでいるのか，しくみを知ることができる。
（2）日頃何気なく手にしている商品の流通・目的など背景を知ることができる。
（3）企業がどういう意図で商品開発をしようとしているか読み解くことができる。
（4）一つのテーマで様々な意見や考えを引き出すことができる。
（5）言葉では難しい内容を図で表現することで，イメージしやすくなる。
（6）アイデアを上乗せすることで，新たなアイデアが構築される。
（7）要点を整理し，簡潔に表現することができる。
（8）学んだ知識をさらに深め，自分の考えや発想力を鍛えることができる。
（9）他者との考え方の違いに気づくとともに，情報を共有することができる。

4．今後の方向性について

ピクト図解メソッドの活用については，１年次では導入段階と位置付け，ビジネス基礎の中で考え方や活用方法について「知る・学ぶ」力を養い，２年次ではマーケティングの授業を中心にビジネスアイデアの構築など「考える」力を育成し，３年次では商品開発，広告と販売促進などの授業で発表・提案をプレゼンテーションする「実践する」力の育成へと学習した内容を体系的に繋げていくとともに，評価の方法についても継続して研究に取組むつもりである。

文責：澁谷（壱岐商）

Ⅲ．授業実践Ⅱ　清峰高校の取組

地域企業連携による「商品開発」における取組
～ピクト図解メソッドを活用したアクティブ・ラーニング型の授業実践～

1．本校の現状

本校は長崎県の北部に位置し，生きる力を育むキャリア教育を重視し，多様な進路実現のために５つの系列を設置する総合学科高校である。教科「商業」では授業改善のためにピクト図解メソッドを導入し，平成 27 年度からこのメソッドを活用した地域企業連携による「商品開発」に取組んでいる。将来，自立した人間として，他者と協働しながら創造的に生き，地域に貢献する担い手を育てることを目的に，課題の発見・解決に向けて主体的・協働的に学び合うアクティブ・ラーニング型の授業実践をしている。

2．地域企業連携による「商品開発」における取組

ピクト図解メソッドは，新しいビジネス創造を容易にするツールとして商品開発に活用でき，例えばビジネスのしくみを直感で把握（理解する），コミュニケーション（会話する），新商品・新規事業の企画（発想する）するツールとなる。

３年次「商品開発」において，基礎編では商品開発の意義，手順を学び，応用編では地域企業の開発商品やビジネスのしくみについて，ピクト図解を使って表現するという実習を行っている。実践編では，地域企業と連携したオリジナル商品の考案のため，ピクト図解を使って発想・表現し，地域企業と連携したビジネスモデルを共有し，構築していく。

連携先企業のＨ社は，本業である建設業から数年前に農業分野へ進出し，作り方にこだわり差別化するブルーベリー，マンゴー等機能性果実を扱っている。グループ会社のＨ商事は，こ

れらの原料を用いた独自商品の開発，販路開拓の事業を担っている。

応用編演習「H 商事の開発商品についてダイアグラム発想法でピクト図解を描こう」

この演習では，生徒は企業訪問を行い，H 商事の開発商品についてヒアリングをする。H 商事のビジネスモデルを読み解くため，ヒアリング資料にヒト・モノ・カネの視点を入れてみると必要な情報が見えてくる。具体的には，誰が，誰に，何を，いくらでというように，ヒト・モノ・カネの流れを整理する「3W1H シート」にまとめる。次に，H 商事の開発商品について，ピクト図解を描きながら顧客に提供する価値や利益を生み出すしくみを考える。生徒は再び企業訪問を行い，H 商事の商品開発担当に作成したピクト図解を示しながら自らが把握した商品のベネフィットや取引関係を説明し，質問をする。

実践編演習①「商品企画案についてピクト図解を描きダイアグラム発想法でアイデアを広げよう」

この演習では，地域企業との連携によるオリジナル商品の開発に向けて，ピクト図解メソッドを活用する。まず，環境分析を踏まえた開発テーマの設定が行われ，そのテーマに基づき市場調査などの情報収集・分析，商品コンセプト立案，商品企画を考案する。ピクト図解メソッドは商品企画を考案する際に，発想・表現，関係者との共有に用いられる。

今回は，「街・人を元気にするブルーベリーを使った補食とは」という開発テーマに基づき，ターゲット顧客，ベネフィット，使用シーンなど商品コンセプトの立案，商品企画の考案を行った。そのため開発テーマについて，文献研究，フィールドワーク，市場調査など必要な情報収集を踏まえた商品企画書を作成し，さらにピクト図解で発想を広げ，再び商品企画案にフィードバックしていく。

具体的には，「3W1H シート」にヒト・モノ・カネの情報を置き換える。このとき，サービスの提供者は誰か，ターゲット顧客は誰か，商品にはどのようなベネフィットがあるか，いくらで売れそうかなどを考えさせる。そして，「3W1H シート」を参照しながらピクト図解をダイアグラム発想法で描いていく。

また，実現性に留意し，生産委託先や販売委託先，ターゲット顧客にニーズはあるか，収益性を生むかなどを考えさせる。できあがったピクト図解を使って，各自の商品企画案についてメンバーに説明をさせ，お互いの気づきなどについて，意見交換をする。このときに見つかった気づきや疑問について，地域事情や顧客層などを調べ，ＫＪ法やマッピングなどで商品コンセプトを洗い直し，ビジネスのしくみについてもピクト図解を板書させる。既存の企業とどうしたら差別化ができ，ターゲット顧客に商品の便益を訴求できるか，一つのピクト図解を一緒に考える時間を設ける。

商品企画校内発表会では，一人ひとりの商品企画案について，ピクト図解を黒板に描き，発表する。このとき，ピクト図解のなかに商品コンセプトも書き入れ，ターゲット顧客にどのようなベネフィットが提供できるか，利益を生むしくみはどうかなども表現する。一人ひとりの発表について市場性・開発可能性などはどうか検討し，スクリーニングをする。採用された商品企画案は，考案した生徒が連携先の企業を訪問して，商品企画検討会でプレゼンテーションをする。説明する対象は，連携先企業の商品開発担当，新規事業担当，行政，生産委託先の方々である。生徒は，ピクト図解を使って，関係者に向けて説明をしたあと，

質問されたことについて答えていく。採用された２つの商品企画案について，検討課題がでたものの大筋で了承され，次は試作品作製，事業構想の立案に移っていく。

実践編演習②「清峰 SHOP の商品開発，新規事業について，ビジネスモデル・キャンバスとピクト図解メソッドを活用し，事業構想を立案しよう」

ビジネスモデル・キャンバスとは，ビジネスモデルを「９つの構成要素」に整理して，事業構想案を考えていくものである。ピクト図解メソッドとこのキャンバスの両方を使うことで，複雑な事業構想であっても容易にビジネスの全体像を俯瞰できるといわれている。９つの構成要素に分類・整理されたキーワードは，ピクト図解のなかで適当と思われる箇所に変換し，ビジネスモデルを可視化し，事業構想をイメージができるようにしていく。

企画した商品は「SEIHO ブルーベリー米粉パン」「SEIHO ブルーベリーはちみつジャム」である。ピクト図解に示される清峰 SHOP のビジネスモデルでは，この２品目を効果的に結びつけて，文化祭や地域イベントで主要顧客層との関係性をつくりながら，常設店である直売店等での販売につなげていこうという意図が示されている。また，生産委託先であるジャム工場から副産物としてでるブルーベリーの皮を活かし，ブルーベリー米粉パンの味，色味を調える原材料として活用するしくみも示されている。

３．成果と課題

最後に「商品開発」履修者のアンケート結果から見えてきた成果と課題をまとめる。応用編演習で「ヒアリングをしたあとにピクト図解を描いたことでビジネスのしくみへの理解が深まったか」という質問について肯定回答の平均は 3.4／4。実践編演習で「商品企画考案のときピクト図解を描いてアイデアの発想などに役立ったか」という質問に肯定回答の平均は 3.4／4。「ビジネスモデルを見える化し説明やコミュニケーションツールに役立ったか」という質問には 3.6／4。このことから商品アイデアの発想，商品企画案，試作品等の説明や意見交換の場面において，ピクト図解メソッド活用の効果が大きかったと考える。

ピクト図解メソッドはビジネスのしくみを見える化し，商品企画の考案や，事業計画等の問題点・課題の整理に適している。そのため，地域に根ざした新しいビジネスアイデアの創出に向けて，地域企業，行政等との関係づくりをしながら事業を構想するために有効である。今後もピクト図解メソッドの有効な活用法を検討し，授業実践の充実に努めていきたい。　　**文責：鈴木（清峰）**

Ⅳ．おわりに

置かれた状況や抱える課題は異なるが，それぞれの学校が目的に応じて適切な場面でピクト図解メソッドを導入することで，それまでに習得した商業に関する知識を活用し，さらに探求活動へとつなげることができている。

生徒の普段の取組の様子や自己評価の結果などから，新規ビジネスアイデアを創造しようとする前向きな姿勢が引き出せたことは明らかである。また，両校の取組の成果からは，ピクト図解メソッドが十分な教育効果を発揮すると結論付けることができる。

しかし，生徒にどのような能力がどの程度ついたか，あるいはそれを適切に評価するためにどのような評価規準を設定すればよいかなど，評価の面ではまだまだ研究の余地が残されている。今後は評価についてさらに研究を進めていき，本取組をよりよいものに発展させたいと考えている。

文責：田中（佐世保商）